

東由利村報

No.26 32.9.10

発行所 秋田県東由利村役場

印刷所 株式会社本間印刷所

32年産米 売渡予約申込状況

(農協)	(32年予約)	(要請量)	(31年予約)
老方	3,720.4	3,200	3,422.4
中下	4,731.2	4,000	4,433.6
玉計	3,278.4	2,700	3,047.6
	8,390.8	6,400	7,416.0
	20,120.8	16,300	18,319.6

【単位、石】

二万石を超える

予約制三年の最高記録

本年産米の予約

三十二年産米売渡し予約申込みは八月十五日締切られたが、各農協別契約量は別表の通りで総計二万二百二十石八斗、要請

け作況の見通しが容易になった②好天に恵まれて豊作気構えが日増しに濃厚になった③予約制に対する理解が深まったことなどが大きな理由とみられている。

なおこの予約実績から今年産米の実収は、法定保有量を六千九百石とみて二万七千石以上に見られている。

石九、九二〇円

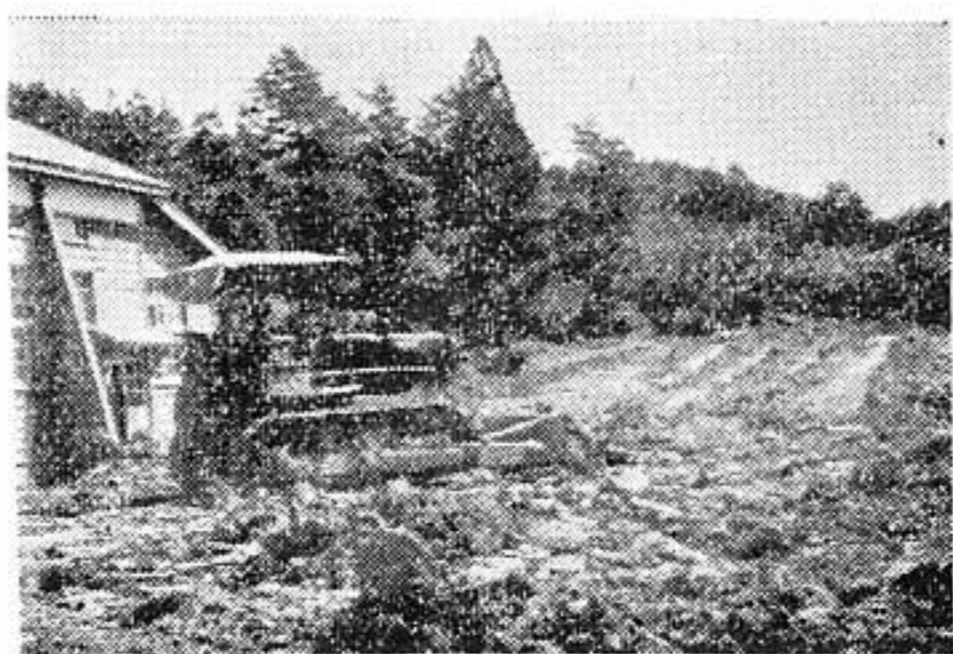
本年産米の基本価格

三十二年産米売渡し基本価格は石九、九二〇円で昨年より一〇円増価、事前売渡し申込みに基づいて政府に売渡した場合は石

一〇〇円が加算される(一俵)基準価格は九月30日まで四、二八八円

十月10日まで四、二〇八円

老朽を上げていた本村巡査部長派出所は老方上通(第四分団ボンプ置場脇)に新築移転される



巡査部長派出所 十一月に新築移転

老朽を上げていた本村巡査部長派出所は老方上通(第四分団ボンプ置場脇)に新築移転される

平和への祈念をこめて

8月21日 戦没者合同慰霊祭

惨めな敗戦から立ち上つてすでに十二年、当今は「もはや戦後でない」などと取沙汰されているが支柱とも頼む夫を失つた遺族の胸中の傷痕はいつたい、いつ癒えるのであろうか。同胞の冥福と平和への祈念をこめて本村戦没者合同慰霊祭は遺族二百余名、県知事代理はじめ来賓多数を迎えて八月二十一日、老方泉秀寺で厳かに執行された。

中村普及員着任 下郷地区を担当

10月21日まで 四、一二八円
10月31日まで 四、〇四八円
11月1日以降 三、九六八円
一等から四等までの等級格差はそれぞれ一俵八〇円、四等と五等は二〇〇円、また稲は梗より四五〇円高、酒米は信交一九〇号のみは二〇〇円高である(郷地区を責任担当される。)

(法)小 グラウンド工事に着手

本年度事業に計画された法内小学校グラウンド新設工事は本荘市長田組の請負で着手した。施行箇所は同校前の隣接地で工事費四〇万円、工事概要は切取四、八〇〇立方メートル、盛土二、二〇〇立方メートル、重粘土の土質に加えて雨天が多いため工事は難行しているが、今月中には竣工する見通しである。

九月市場の成績

九月定期家畜市場は三日台山馬検場で開催された出陳頭数は子牛二三頭、おす八頭、めす一五頭、おすの総売上は一三七、〇〇〇円、平均一七、一二五円、最高二二、一〇〇円、めすは三〇四、六〇〇円で平均二〇、三〇七円、最高二八、六〇〇円という成績を収めた。

なお次回市場は十一月に予定されている。

自衛官【二次】募集 二十日に締切

防衛庁では六月十一日以降九月二十日まで自衛官の本年度二次募集を行っている。

採用予定人員は陸士一万名、海士五百名、空士一千名、応募資格は十八才から二十五才未満(三十三年一月一日現在)である。これら募集要領を詳細に記載した志願案内、志願票等は役場に備付している。

県農地部会員に 阿部(直)氏当選

本村農業委員会選出の県農業会議員阿部直一郎氏は、八月三十日開催された同会議部会員互選会で農地部会員に当選した。なお由利郡から選出された部会員は二名であった。

子畜検査員に田代氏

本村の子畜検査員に田代寿治氏が九月一日任命された。

下郷中学校

この光栄をともに
輝やく十周年の記念式典

文部大臣の談話等で、この光栄をともにわかとうと、同校生徒、学校、地元関係者多数の参列をえて九月三日盛大に十周年記念式典を挙行了した。学校長の式辞、PTA会長、生徒代表あいさつに続いて陰の力となつて同校の興隆につくされた小松忠一郎、小野繁太郎、小野オチヨ三氏を表彰、PTA会員、生徒一同にそれぞれ記念品を贈呈、県教委井上分室主任、村長、前校長等多数来賓の祝辞あつて式を閉じ、夏休み中の生徒の諸作品ノートの展示会参



(威儀を正して今日はよき日)

9月15日としよりの日

本村の高齢者一八三名

九月十五日はとしよりの日として二十一日まで福祉週間が施される。としよりは今日の社会を築くために存在した人々であり、現在なおその社会を構成する大切な要素である。としよりに対してその功績と意義とを認め、深く感謝と敬愛の心を捧げよう。

本村の七十才以上の高令者は一八三名で、この福祉週間中

等を統一し、村と公民館が共同で開催する、また農協その他関係団体の全面的な協力を受ける

単に出品物の展示にとどめな

いで多彩な催しをおりこみ農民祭の性格を強める

期日は11月上旬

3日間にわたつて開催する。

出品の範囲は従来と大差ないが、おむね次のとおり

①農産品②加工食品③手芸品④薬工品(吹・俵)⑤俵米⑥葉たばこ⑦木炭⑧蕨⑨家畜類(兎、鶏程度)

出品物は村内全戸が出品するよう呼びかける。

農民祭の性格をつよく
農産品評会の大綱決る

今秋に予定されている農産品評会は新しい構想で開催するため先に村ならびに公民館、各農協関係者農業改良普及員、木炭検査員間で開催要領を協議し大綱を次のように決めた。

この大綱に示された今年の品評会の大きな方針としては各団体ごとに開催されていた各種品評会の統一、いろいろな催しの併設などで内容を充実し、従来になかった農民祭の性格を強くして全村民の前に解放することになった。なお詳細な開催要領は今後検討して決定される。

これまで各種団体や公民館の分館ごとに実施してきた品評会

観、アトラクションに招かれた劇団「わらび座」の熱演に歓をつくして一日を終った。

下郷中学校の輝やかしい十年のあゆみの中から主なできごとをひろつてみると

- ▽二十二年五月一日創立▽全郡籠球大会で優勝(男1122 二三・二四・二九、女1124 二五・二八)▽独立新校舎落成(二六)▽県保健体育標準校に指定(二七)▽気象観測優良校として県知事表彰(二七・二九・三〇)▽グラウンド完成(二八)▽岩波文庫六百冊の寄贈を受ける(二八)▽NHK合唱コンクールで優良賞(三〇・三一)▽文部省学

力検査校に指定実施(三一)▽文部省衛生統計調査校に指定(三二)

九月の防犯

泥棒のカキイレどき

これから農繁期と行楽期をむかえるので留守や疲れた寝こみをねらわれやすい。ある意味でどろぼうのカキイレ時である。

本県で昨年九月の窃盗犯罪の発生は一、二五〇件、屋内盗六四三件、屋外盗六〇七件で各月平均の二倍にあたつている。

【空巣】家族の留守をねらつて一日に十数軒も荒し廻る専門のどろぼうがいた。留守番をおくとか隣近所に連絡しておくとか部落が共同して被害を防ごう。

【しのびこみ】疲れてぐつすり寝こんだところをねらわれやすい。戸締りを忘れず厳重に。

【野荒し】稲どろぼう、野菜などの野荒しも増える。これはなかなか防ぎにくいが犯人は案外近くにいる。部落会合で申合せ共同で見張りするのも一方法。農機具、自転車も置忘れないように。

玉米地区で
遺族会結成

戦没者遺族の正式な横の連絡をもたなかつた玉米地区では、八月二十八日関係遺族が玉米支所に会合して遺族会を結成した。会長青木芳雄氏、遺族数は百三名である。

【押売り、コジキ】老人や婦女子の留守番はい、カモにされる留守の時はどろぼうに早変わりもする。これらは絶対相手にしないこと。隣近所が連絡をとり、なによりもすぐ警察に一報する。



間近い刈取り

二百十日も無事に過ぎた農家は大きな作業からしばらく解放されて刈取りの時期を静かに待っている。見渡すかぎりの田圃は日増しに稔りの色を深めていく。お百姓さんの半年の苦闘が、こゝに結晶していくのである。

【さぎ犯】米代金などで農家に現金が入るのをねらっている。いろいろな手段を変えて金をまき上げようとする。懐具合がよくないと人の言葉を軽く信用するといふスキが出やすいぬれ手にアワのうまい話は転つていない、用心。